

目的 美的感覚や良いセンスといつたものは、人格形成の途上にある幼児期において、衣服を通して養われるものと思われる。特に母親と子どもの色彩嗜好と衣服の色彩に関して研究した。

方法 調査対象を1表のごとく質問紙により、母親、及び園児に記入してもらった。

	男	女
4才	37	35
5才	42	42

色に関する回答は色名ではなく、発色材をクレヨン又は、パスと定めぬってもらい、オストワルド体系に基づき分類した。これらのデータは、全体、年齢、性別、園別の4種類に分類し、それぞれの連関について、 χ^2 -検定を行ない比較、検討した。

1表

結果 母親と子どもに関する15項目の検定より有意な連関が認められた2者の関係は、1:子どもと母親の嗜好色の関係(4才児)、2:子どもの嗜好色と子どもが喜んで着る色(全体・4才児) 3:子どもが喜んで着る色と母親が子どもに似合うと思う色(全体・5才・4才・女児)、4:母親が子どもに似うと思う色と子どもの嗜好色(5才・男児)の4つの組合わせであつた。これらの関係から子どもが喜んで着る色は、全体において子どもの嗜好色及び母親が子どもに似合うと思う色から影響されると考へられ、4才児では母親の嗜好色が子どもの嗜好色に、さらにそれが、子どもが喜んで着る色に影響していると思われる。

特に2者の関係のうち子どもが喜んで着る色と、母親が子供に似合うと思う色についての連関が最も大であつた。